

## ◆ 会員紹介 12

### NPO 法人 道普請人

#### 団体活動目的

「自分達の道は自分達で直せるという意識を広げたい」

NPO 法人道普請人は、開発途上国の問題はその国の人々で解決してくことを手伝う、との理念で活動しています。農村地域の活性化のために、現地資源を有効利用して農民自身が、農道（農村生活社会基盤）を整備し維持管理することを目指した国際協力に関する事業を行い、世界の貧困削減に寄与することを目的としています。

#### ●活動背景：未整備な生活社会基盤

途上国・農道のほとんどは舗装されておらず、雨季になると泥濘化し人・車両の通行が困難となります。農家が農作物を市場へ出荷できず収入が得られない、病院や学校へアクセスできないことなど、悪路がもたらす問題が貧困の大きな原因となっています。

京都大学 木村 亮 教授（本団体 理事長）が 1993 年にケニアで短期専門家として活動して以来、土木工学者として開発途上国の人々の幸せのために、どのようなアプローチで貢献できるだろうかと考え、辿り着いたアイデアが「土のう」工法でした。現地で調達可能な材料と簡単な技術で農道の通行性を改善できます。



国際労働機関より受託事業の様子



(独) 国際協力機構事業での専門家活動

### ●活動内容：やる気と自信を引き出すインフラ整備

「土のう」工法を現地住民へ技術移転する事により、彼らの力で道直しが可能となり「自分達の道は自分達で直せる」という自信とやる気生まれます。市場へのアクセスが良くなり農作物を売り得られる収入が増えた、病人や妊婦を病院へ運べるようになった、子供たちが安全に学校へ行けるようになった、など暮らしを豊かにすることにつながっています。

近年では、土のう工法技術を習得した若者グループが 小さな建設会社を設立し国から仕事を獲得など、若者雇用を促進させる活動としても本団体の活動が注目されています。

### ●世界の貧困削減を目指して

開発途上国の数とその人口は、それぞれ 153 ヶ国、57 億人と言われています。その多くが農業国であり、農村部で貧困層にある人々がその過半数を占めているのです。「土のう」工法など住民参加での農道整備手法を、一人でも多くの人々に届け定着させることが、世界の貧困削減に寄与するという団体使命の達成に向けて、重要です。事業体として発展的に活動を展開するため、草の根から民間、行政（日本や活動国）、国際機関を巻き込みながら、精力的に事業形成と運営を行っています。2014 年 12 月現在、これまで 21 カ国（アフリカ 12 カ国、アジア・太平洋州 9 カ国）で活動を行ってきています。

また、日本のシニアエンジニアの協力を得て短期専門家として現地入りしていただき、その技術力を発揮し継承していただいています。

### ●日本ブランドの一つ

2014 年 1 月、安倍首相はアフリカ連合本部で『「一人、ひとり」を強くする日本のアフリカ外交』と題して演説を行いました。その中の【若者に明るい未来を】の章で格好の事例、として本団体名とその活動が紹介されました。日本ブランドのひとつとしての気概を持ち、土木技術で世界の人々の暮らしを豊かにすることに、貢献していきます。今後も、ご期待ください。



ミャンマー

シニアエンジニアの助言のもと  
開かれた住民説明会



ケニア

在ケニア日本大使館公使、ケニア運輸・  
インフラ省長官の前でのデモ

特定非営利活動法人 道普請人

理事長 木村 亮

URL: <http://coreroad.org/> E-mail: [info@coreroad.org](mailto:info@coreroad.org)